

## ちょうふ市民討議会 2012 第7回実行委員会議事録

日時 2012年7月17日(火) 19:30より  
場所 (公社)調布青年会議所 事務局2階会議室

出席者 【実行委員】(敬称略)

阿部正幸(○) 榎本陽介(×) K. O(×) 梶原良介(▲) A. K(▲)  
小峯充史(○) 小山晃一郎(×) 齋藤孝(×) 竹内一(×) 竹中富知男(×)  
田中八栄子(▲) 谷口淳(○) 長谷川正(▲) 原島秀一(○) 平松明(▲)  
廣瀬豊(×) 増田健治(○) 宮澤学(×) 若松正晴(×) 和田勝幸(▲)  
安藤貴弘(○)

出席6名、遅刻・途中退出6名、欠席9名 計21名

出席者 【特別出席者・傍聴者】

公益社団法人調布青年会議所 副理事長 嵐祐子様

【配布資料】 議事次第、全体スケジュール

※その他資料につきましては、事前配信資料をご確認願います。

1. 実行委員長挨拶 原島実行委員長
2. 出席者確認・特別出席者・傍聴者の紹介  
・上記の通り
3. 資料の確認・書記任命 書記：増田運営副専務

#### 4. 議題：

##### ① 前回議事の確認

- ・メーリングリスト上で回覧された議事録の通り

##### ② 日程について

- ・第一討議会の日程について

→ 10月21日（日） 13時30分 あくろすホール

- ・討議会の会場は、過去3回開催しているあくろすを第一候補に考えていた。
- ・10月の土日の中で予約が入られたのがこの日のみで、この予約自体も5倍の抽選を乗り越えたものなので、出来ればこの日から動かさず進めていきたい。

- ・臨時実行委員会について

→ 7月24日（火） 19時30分 あくろす3階研修室3

模擬討議会の実施

- ・当初のスケジュールよりテーマの選定がずれこんでいるため、臨時で実行委員会を開催する。

##### ③ テーマについて

- ・確定に向けて 原島実行委員長

###### 現在の状況

- ・討議会開催日の10月21日から逆算すると、お盆明け8月20日頃には無作為抽出のための発送をしていく必要がある。
- ・そのためにはお盆前8月初旬までにテーマ選定から当日の運営手法まで決定していかないといけない。
- ・本日テーマを確定させたいが、決まらなければ臨時実行委員会を都度開催していくことも視野に入れている。
- ・討議会開催日は会場の都合や、提言書の提出時期を考慮するとずらすのは難しい。

###### 今年度の方針

- ・前回、今年度方針の3本の柱として、
  1. 市民討議会の目指すところ  
市民一人ひとりのまちに対する想いを強めていくこと
  2. 今年の市民討議会の位置づけ

行政をはじめとした皆様に、その手法の有効性を認識してもらうこと  
3. 今年のテーマ選定に当たりどのような視点を重視するか  
政策立案の一助になるかどうかを大切にしていくこと

をご説明したが、議事録を読む限り合意ができたと考えている。

- ・この方針に対したくさんのご意見を頂いた中で、「行政がどういう方向性で施策を進めているかを知り、その上で行政と全く違う方向性をとるのではなく、市民目線でどう実現していくかの部分に対して討議会としての意義が出てくるのではないか。」という意見を頂いたが、どのテーマにするにしても行政のスタンスや取り組み方を深く理解するという部分は大切にしていきたい。

#### 前回までの経緯

- ・みなさんから出して頂いた 19 のテーマを 5 つに絞り、行政にヒアリングを行なった。但し、行政の受け入れは基本的にはノーだった。その過程で行政から一つだけ鉄道敷地利用というテーマの提案があった。
- ・前回、今後のスケジュールや今年の柱として行政とやっていく必要性等を考えて、これで進めさせて欲しいとお願いしたが皆様の合意を得られなかった。
- ・今まで調査研究してきたのであればもう少し深い議論をしたほうがいいのではないか、そのような流れで再度資料をメール配信して今回の実行委員会に至っています。

谷口) 結果を出すという意味では「鉄道敷地利用」になるのではないかと思う。

ただ資料をみて多少は理解したが、すでに提言書がまとめられているような状況で討議会がなにか介入する余地があるのかが不透明。

小峯) 具体的にいえば、「鉄道敷地利用検討会」の提言書内「更なる検討を要する事項」の維持管理の方法について、行政としてはアイディアが欲しいようだ。市の描いている構想図を根底から変えるような話ではない。

提言例としては、他テーマの内地域コミュニティを重視したものであれば、子どもとお年寄りの世代間を超えた歩道上の樹木の維持管理や、私の考えで他市でも似たような事例があるが、太陽光パネルを設置しそれを市民主体で活用していく等。

谷口) 樹木の維持管理みたいなのは素人には難しいのでは。

小峯) 武蔵境通りでは、樹木の維持管理を周辺市民の方がやっていると聞く。

A.K) 検討会では、この「更なる検討を要する事項」について動いてないのか。

小峯) 提言書でまとめられているので、検討会がそれ以上動いているということはない。街づくり事業課がこの提言書を元に具体的なアウトプットを考え

ていかなければいけないという状態。

A.K) 鉄道敷地どのような形にするかの導入時の整備についての検討までしていかなければいけないのか。

小峯) 提言書による緑の歩道という大きな方向性がすでにあるため、それは必要ない。市としては、実際の検討は平成 26 年頃から始め 10 年くらいかけて完成させたいようだ。

谷口) 小田急も地下化し、敷地を震災対策の臨時道路や備蓄倉庫にするというようなニュースもみた。

A.K) 討議会当日の場の雰囲気、討議会当日を終えた後の提言書がどういうものになるかのイメージが見えてこない。

谷口) 行政が市民主体を望んでいるということは、結局はマスコミ等を使っていかにボランティアを集めるかという話になるのだろうか。

原島) 「強制的になにかしてください」という提言結果ではなく、自分達でやってみたいと思えるような、維持管理のしやすい提言結果にまとめあげてあげれば市民が自発的に動くのではないだろうか。

例えば、壁に子どもたちの絵を描かせるや、今までのテーマである都市農業を活かした案としては、菜園的なものを設置しその維持管理をする等。

谷口) アイディアはたくさん出てくる。ただ、それが実現可能かは討議会のその場ではわからないのでは。

A.K) 実行委員会としては、実現可能性のレベルをどこまで設定しておくかが重要ではないか。市と交渉が済んでないとたくさんのアイディアが出てても実現できないのでは。

原島) 提言結果の全てが実現するというのは不可能。討議会の中で色んなアイディアを出して頂き、ジャッジしてもらい、我々が提言書としてまとめあげて提出する。その中には行政が受け入れられないものもあると思うが、一つでも二つでも実現すればいいと考えている。

小峯) 自由に意見を出し自由に意見をまとめる、それが市民討議会。

第一討議会では例年通り投票してもらい意見をまとめて頂く。第二討議会で実際に実現可能かをまちあるきで見え、その間に我々は市と調整する。その上で第三討議会では実現可能性という部分で深い討議して頂く。そうすればある程度は落ち着くところにまとまるのではないか。

阿部) 維持管理というよりは、市の作る緑の歩道部分に対する活用方法に近い。

田中) ハコといった物理的な部分は行政としてはあまり動かせないはず。

また、敷地部分がどこの所有かで討議会での話の方向性も変わってくる。

小峯) 市としては公にはいえないと思うが、大前提は調布市のものとして進めていて問題ないと思う。

梶原) この事業に対する市の最も責任ある担当セクションに今の我々の意見をぶつけてみないと進めないのでは。

テーマの問い掛け方を少し変えるだけでもあがってくる意見はまるで違ったものになる。市の担当者の生の声を聞き、担当者のこの事業に掛ける意気込みや距離感、それこそ行政のスタンスや取組み方を確認しないと、我々の立ち位置も定まらない。

小峯) 前回谷口委員からも意見があったが、どのテーマになるかわからない中で一テーマについてだけ行政を呼ぶのには懸念があった。但しこのテーマに確定するのであれば是非ともお呼びしたいと思う。

長谷川) 行政としては市民の声でこの事業を後押しして欲しいのかなと思う。

梶原) 情報提供次第で討議会の結果をある程度はコントロールできるだろうと思う。楽しく夢が持てるような結果にするためにも、実行委員会として今後情報提供をどうするかという部分が非常に重要。

小峯) 具体的な手法の段階になれば、今まで調査研究してきたテーマを手法部分に活かせると思う。

A.K) テーマが複合的になるのは NG なのか。

原島) 当初は全く考えていなかったが、みなさんと話していくうちにそういう方向性も考え始めた。

谷口) 結果としてあるテーマに複合した形になるのは問題ないと思うが、最初から討議テーマに織り込んでしまいテーマを狭めるのはどうかと思う。

田中) 今年の他のテーマについては、来年以降にも持ちだして使えるし、それが継続にもつながると思う。

それよりも 10 月 21 日に開催日が控える中、このテーマでどう討議会当日を運営していくか、直近のことであれば 7 月 24 日の臨時実行委員会をどう進めるかをもう考えた始めたほうがいいのでは。

原島) 本来は本日模擬討議会の予定で考えていた。ただ、テーマが決定しないと模擬討議会も行なえない。

ある程度皆さんの納得を得てテーマを決めていくために、前回実行委員会後すぐにメールをお流しし、本実行委員会に臨んでいる。

小峯) とりあえずこのテーマで進めてみて判断してもいいのでは。

谷口) 欠席した委員については、今日テーマを決めるといった上で欠席の意思表示をされているので、今日決定することに関しては合意しているのでは。

原島) ではこのテーマに仮決めをしたい。

増田) どのテーマを選定したとしても進めていく中で今年度の方針にそぐわないとなればテーマを選定し直す必要が出てくるので、そういう意味では今の段階では全て仮決めになってしまうのでは。

A.K) 委員全員に高いレベルでの納得を得てもらいたいのはわかるが、ある程度は実行委員長の権限と責任をもって足きりしてもらっていいのでは。

増田) 一応、今年度調査研究してきたテーマを無駄にしない、来年度以降に活かしていきたいという話は実行委員長からすでに打診頂いていて、ホームページ上でテーマ選定シート等は公開していく予定になっている。

またこれは私見であるが、今年の市民討議会の根底となるテーマはなにかと問われたら「地域コミュニティ」であると考えている。それは行政が市民に求める市民主体、調査研究上であがってきた地域のつながりが足りないという現場の声、行政と市民の発信できることの違いという点からすると、テーマ自体は「鉄道敷地利用」であっても最終的な提言結果の手法は「地域コミュニティ」が深く関係してくるのではないか。

A.K) 私は市民討議会とは、討議会参加者が主役で、実行委員会は意見をもたない裏方という認識で本実行委員会に参加した。ただ、実行委員会として意見やポリシーをもって運営し、継続していく中でそれを資産化していくことができればいい実行委員会になっていくのではないか。

原島) それでは「鉄道敷地利用」でテーマを確定して進めていきたい。

#### ・ 次回の実行委員会に向けて

##### 次回模擬討議会テーマ

**鉄道敷地に新しくできる緑道や広場で私たち市民はどんな活動ができるか  
～ぬくもりある遊歩道に向けて～**

- ・ 市の担当者を呼ぶためにも「具体的な討議テーマ」を決定した。
- ・ 本日の実行委員会内で意見の出た、
  - ・ 楽しくて夢が持てる
  - ・ 市民が維持管理しやすい
  - ・ 愛着のある等を基に決定した。
- ・ 次回実行委員会は上記テーマに対し模擬討議会を行なう。  
手法は例年を踏襲しKJ法。

- ・市の担当者は可能であれば呼びます。

#### ④ その他

—

### 5. 報告事項

- ・ホームページについて 増田運営副専務  
実行委員会の風景を記事として掲載を考えている。その際に委員のみなさんから一言頂きたい。
  - ・三行程度の文章で
  - ・主に今日の実行委員会の感想  
(それ以外であれば、いままで実行委員会を見てきてや、市民討議会への想い等)
  - ・今回は、阿部委員と長谷川委員
  - ・締切は、7月23日(月)まで
  
- ・「街づくりの集い」について 安藤運営専務  
深大寺地区のほうで討議会の手法を利用した会議を行なう。地区単位レベルです  
で活動している会があるというのを、お時間があれば見に来て頂ければ。
  - 名称：街づくりの集い
  - 日時：9月1日(土) 開場 14:45～ 開会 15:00～
  - 場所：調布市深大寺市営住宅集会所  
(調布市深大寺東町2-23付近)
  - 運営：調布市深大寺東部地区へそづくりの会

### 6. 次回実行委員会開催日の決定

- 日時：2012年7月24日(火) 19:30より
- 場所：調布市市民プラザあくろす 3階 研修室3

### 7. 閉会挨拶 梶原委員